

図画工作科学学習指導案

日時 令和3年7月7日(水)
第5校時 13:25~14:10 (45分)
対象 第5学年3組 36名
学校名 大田区立松仙小学校
会場 1階 体育館

校内研究のテーマ

楽しい授業の創造

～3つの課題解決の視点を生かして～

1 題材名

「まだ見ぬ世界」 (絵に表す)

「A表現」(1)イ(2)イ 「B鑑賞」(1)ア

[共通事項](1)ア イ

2 題材の目標及び題材の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の目標	<ul style="list-style-type: none">写真から想像を広げて、絵に表すときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解する。(知識)表現方法に応じて水彩絵の具を活用するとともに、描画材についての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。(技能)	<ul style="list-style-type: none">写真から感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考える。自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。	<ul style="list-style-type: none">主体的に写真から想像を広げて、絵に表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none">写真から想像を広げて、絵に表すときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解している。(知識)表現方法に応じて水彩絵の具を活用するとともに、描画材についての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。(技能)	<ul style="list-style-type: none">動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもちながら、写真から感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	<ul style="list-style-type: none">主体的に写真から想像を広げて、絵に表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようという思いをもっている。

3 指導観

(1) 題材観

<学習指導要領の位置付け>

1 図画工作科の目標
(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようになる。
(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
(3) 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。
2 内容
A 表現
(1) イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。
(2) イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前年度までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に活かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。
B 鑑賞
(1) ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。
共通事項
(1) ア 自分の感覚や行為などを通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

これらを踏まえ、本題材は、小学校学習指導要領図画工作科第5学年及び6学年の内容A表現(1)イ、A表現(2)イに重点を置いて設定している。

本題材は、写真という発想の起点が明確にあることから、児童が表したいことを比較的見つけやすい題材であると考えられる。また、児童が使い慣れている水彩絵の具を使用することで、児童が行為を通して得た知識や技能を活用し、自分なりの表現を広げることができると考えられる。本題材において、図画工作科における「造形的な見方・考え方」を働かせながら制作するということは、『写真がもつ造形的な特徴を捉え、感じたことや思いついたことに自分なりの価値や意味を見出し、「まだ見ぬ世界」という抽象的なイメージを、具体的な形や色に結び付けて表現すること』と捉えた。抽象的なイメージを、形や色などと結びつけたり、それを自分らしく表現したりすることに苦手意識を感じる児童も多い。そのような児童にとって、今回の題材が、少しでも自己の想像力の広がりを感じられ、表現の楽しさを実感できる題材となるようにしたい。

本題材では、1枚の写真を基に発想したり、自分のイメージをつくり上げたりして、思い思いに自分なりの「まだ見ぬ世界」を表現していく。「まだ見ぬ世界」と聞いて児童は、「まだ見たことのない世界」、「空想の中の不思議な世界」など、自分なりのイメージを膨らませるだろう。その際、自分にとってのまだ見ぬ世界であることを全体で共有し、自分の見たことや感じたことなどと重ねながら作品のイメージを深めていけるようにしたい。一枚の写真から、その写真の造形的な特徴のみに着目して発想するだけでなく、画面にストーリーを見出しながら制作することで、より豊かに発想が生まれると考えられる。目の前の形や色から何を感じ、どのように表現するか考えながら制作することを通して、形や色に向き合いながら絵に表すという活動に十分に味わえるようにする。

児童が写真のもつ造形的な特徴を捉え、そこからもったイメージを表現できるように、活動の導入で部分では、選んだ写真をじっくり鑑賞したり、鑑賞したことで新たに思い付いたことをワークシートに書き込んだりする。また、活動の終わりには、自己のイメージがどのように形や色に表現できたか、自分の「まだ見ぬ世界」がどのように広がっていったかなどを振り返る活動を取り入れる。自身の活動を振り返るとき、徐々に自分の見方が広がっていった楽しさや面白さに気付くことができれば、身近な作品のよさや面白さにもより気付くことができるようになっていたり、より生活の中の造形に豊かに関わろうとしたりすることに繋がるのではないかと考える。

本題材を通して、造形的な特徴を基に自分のイメージをもち、形や色と結びつけ、自分なりに表現するなどの図画工作科における児童の資質・能力を一層高めると共に、児童が自己の表現にじっくりと向き合い、その一つ一つに意味や価値を見いだして、表現することの楽しさを味わえるようにしたい。

(2) 児童観

5年3組の児童は、楽しいことや、面白いことを見つけると、純粋に楽しもうとすることができる児童が多い。例えば、造形遊び「あんなところがこんなところに見えてきた」では、身近な場所を別の空間につくり替える活動を行うことに対して「面白い！」と言いながら関心を持ち、各自が自分の表したいことについて考え、活動する姿が見られた。できた作品を鑑賞し合う際には、友達の表現のよさや面白さを肯定し、伝え合ったり自分の作品に生かそうとしたりする児童も見られた。このように、自分で表現することの楽しさを味わったり、他者の表現のよさを認め、尊重し合ったりすることができる児童が多い。

しかし、自由な表現活動を楽しもうとする素地がある一方、自分のイメージに対する適切な表現方法を十分に理解していない児童や、造形的な特徴を基に発想を広げることが難しい児童も見られる。

本題材に至るまでには、「心のもよう」「絵の具スケッチ」などの題材を通して、水彩絵の具、コンテパスなどを用いた、絵に表す表現活動に取り組んだ。しかしながら、活動を通して獲得した知識や技能を総合的に活用させたり、自分のイメージを形や色などに結び付けたりして、構成や色彩などに十分に反映できる児童は少ない。例えば、「心のもよう」では、暗い気持ちを表現するために、黒や赤といった単色のみを塗り重ねたり、「これでいいですか？」と聞きながら作品を見せ、自己の作品への評価を他者に委ねたりする児童の姿が見られた。

自分の思いを十分に込めて制作する活動を通して、発想・構想する力や、自分のイメージに合う形や色を使って表現する力を一層伸ばしていきたい。

(3) 教材観

- ・基底材…白画用紙で統一する。着彩した際、児童が意図した色を発色よく反映させることが可能である
と考える。大きさは、複数用意する。30cm×54cm（ワイド）、39cm×39cm（スクエア）、
39cm×54cm（四つ切り）の3種類である。世界をどのように表現していくかによって、大き
さを変えられるようにする。
- ・描画材…水彩絵具を用いる。濃淡の表現、色の重なり、にじみ、ぼかしなどの表現が容易にでき、発色
もよい。また、水溶性で色の足し引きも可能なため、児童の表現活動に適していると考ええる。
- ・用 具 …ぼかし網、ブラシ、刷毛などの、過去に活用したことのある用具を用意し、思いに応じて活用
できるようにしておく。あくまでも、自己のイメージや思いに応じて活用することが大切であ
ることを児童に伝え、表現の手軽さから、単なるモダンテクニックに頼る表現とならないよう
留意する。
- ・写 真 …フリー画像素材から15種類の画像を取り上げ、児童が選択できるようにした。大きさは、小
さすぎると児童が写真の造形的特徴を捉えたり、生かしたりできないと想定し、7.5cm×11cm
が適切であると考えた。児童が、写真のもつ造形的な特徴により着目することができるよう
に、実際の風景や素材を映した写真を提示する。また、モチーフや構成、色彩などが異なる写
真を多く用意することで、児童の関心に合った写真を選択できるようにする。

(フリー画像素材の出典：pixaboy. <https://pixaboy.com/ja/>)

規則的な形や線から
動きを感じる写真



人物や生き物から
物語性をもてる写真



シンプルな構図や、バランスの取れた
色彩から、発想しやすいと考えら
れる写真

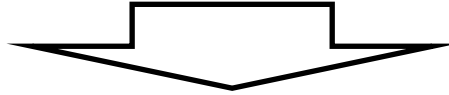


(4) 指導にあたって

本題材では、テーマに沿って児童の資質・能力を育成するために3つの課題解決に向けた視点を基に指導を充実させる。3つの視点と具体的な手立ては、以下に示している。

<課題解決の視点>

- ①課題を見つける導入の工夫
- ②課題解決に効果的に取り組むための指導
- ③課題解決に向けた考えを再構築する振り返りの工夫



<テーマに迫る手立て>

<p>課題を見つける 導入の工夫</p>	<p>活動の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が見通しをもって学習に取り組むことができるように、題材計画や1時間の学習の流れを児童と共有する。 <p>板書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が、イメージに合わせて工夫して表現することができるように、形や色、構図などに着目した表現の工夫の仕方の視点到気付けさせ、児童の思考の手がかりとなるようにする。 <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が様々に個々の発想を広げたり、自分のイメージをもったり膨らませたりすることができるように、「写真がもつ造形的な特徴（形や色など）」や、「そこから感じたこと、思いついたこと」をワークシートに書き込む活動を取り入れる。 <p>教具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が、写真がもつ造形的な特徴に着目して発想を膨らませることができるよう、異なる特徴を含んだ写真を豊富に用意する。 ・児童が、「まだ見ぬ世界」を具体的に想像することができるよう、児童の発想の基となる写真は、実物を映したものに限定する。 ・児童が、写真をもとに豊かに発想することができるように、3種類の大きさの画用紙を用意し、イメージに合わせて選べるようにする。
<p>課題解決に効果的に 取り組むための指導</p>	<p>主体的に取り組むための指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動が滞っている児童に対しては、イメージしたことをどのような形・色で表せるか共に考え、助言する。 ・意欲的に活動している児童に対しては、より自分の思いに合った表現を吟味したり、作品のストーリーを考えながら制作したりするよう促す。 ・自己の思いに向き合いながらじっくり制作することができるように、机を一人一つずつ割り当て、個人で活動することができるようにする。 ・児童が、自己の作品にじっくりと向き合い、自分なりの表現を模索する活動に浸れるように、発言は形や色などに関するつぶやきのみに限るよう指導する。また、活動に行き詰まったり迷ったりした場合は、活動の妨げにならないよう、自由に友達作品を見てもよいことを伝える。 ・用具置き場を児童の中心に設置し、用具を取りにいく際に友達作品に触れられるようにする。 <p>掲示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が、イメージを形や色と結びつけながら工夫して表現できるよう、前時に共有した工夫の視点を黒板に掲示して、常に見ることができるようにしておく。
<p>課題解決に向けた考 えを再構築する 振り返りの工夫</p>	<p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が、本時の学びを次時に生かしたり、次時の活動の見通しをもったりすることができるように、「うまく表現できたところ」、「次にやってみたいこと」の2つの視点で振り返り、ワークシートに書き込む。 ・児童が、イメージの広がりや深まりを振り返ることができるように、制作を通して広がったイメージをワークシートに書き足していったり、題材の最後に自分の世界についての簡単な物語を書いたりする。

5 題材計画

時	○主な学習内容 ・児童の活動	◆指導上の留意点 ◇教師の支援	学習活動に即した 評価規準（観点）【評価方法】
1	<p>○「まだ見ぬ世界」について自分のイメージをもち、構想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まだ見ぬ世界」とはどのような世界なのか話し合う。 ・写真を1枚選ぶ。 ・写真の形や色などを基に、気付いたことや、思いついたことなどをワークシートに整理する。 ・自分のイメージを表すために、工夫できることについて話し合う。 ・イメージに合った大きさの基底材を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童が、「まだ見ぬ世界」について理解し、制作に生かせるよう、「まだ見ぬ世界」とはどのような世界なのかを、児童と共に話し合い、イメージを広げる。 ◆児童が、写真のもつ造形的な特徴を意識できるように、形や色などの視点で気付いたことを見付けるよう指導する。 ◆児童が、活動のイメージをもてるよう、全体で1枚の写真について鑑賞し、気付いたことやどんな世界が想像できるか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真から感じたこと、想像したことなどをワークシートに書き込むなどして、写真を基に主体的に想像を広げている。 <p>(主体的に学習に取り組む態度) 【ワークシート・児童の様子】</p>
2 (本時) 3・4・5	<p>○イメージを形・色などと結び付けて、「まだ見ぬ世界」を表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫の視点を意識して、想像したことを絵に表す。 ・「まだ見ぬ世界」に対するイメージがどう広がったかという視点で活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童が、イメージを広げながら制作することができるよう、自分なりのストーリーを思い描きながら表現するよう指導する。 <p>◇発想に行き詰まっている児童に対しては、ワークシートを見返して写真から感じたことをどのように表すか共に考えたり、写真の形や色を延長させて、世界を広げてみるよう助言したりする。</p> <p>◇児童が、イメージしたことを形や色に具体的に表すことができるように、児童のイメージに合う形や色を問いかけたり、必要に応じて図鑑や画像などを活用するよう助言したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を基に表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。 <p>(思考・判断・表現) 【作品・児童の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどに着目して作品を構成したり、工夫を説明したりしている。 <p>(知識) 【作品・児童の様子・発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいことに合わせて、経験や技能を総合的に生かし、組み合わせるなどして絵に表している。(技能) <p>【作品】</p>
6	<p>○友達の作品のよさや美しさなどを感じ取り、自分の見方や感じ方を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の物語を書いたり、工夫したところを振り返ったりする。 ・友達の作品を見て感じたことを伝え合う。 ・作品の物語を知る。 ・鑑賞を通して感じたことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童が、友達の作品のよさや美しさ等を味わうことができるよう、最初に作品のみを見て感じたことを伝え合う活動を取り入れ、その後物語を知るという流れで鑑賞する。 ◆児童が、作品の見方や感じ方を広げることができるように、視点を豊かにもって鑑賞することができた児童を全体で取り上げたり、一つの作品に対する異なる見方を取り上げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品のよさや面白さなどを捉え、友達に伝えたり、振り返りに記入したりしている。 <p>(思考・判断・表現) 【ワークシート・観察・発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の活動を振り返り、つくりだす喜びを味わったり、学習を生かして豊かな生活を創造しようとする思いをもったりしている。 <p>(主体的に学習に取り組む態度) 【ワークシート・発言】</p>

6 本時の活動計画（2/6）

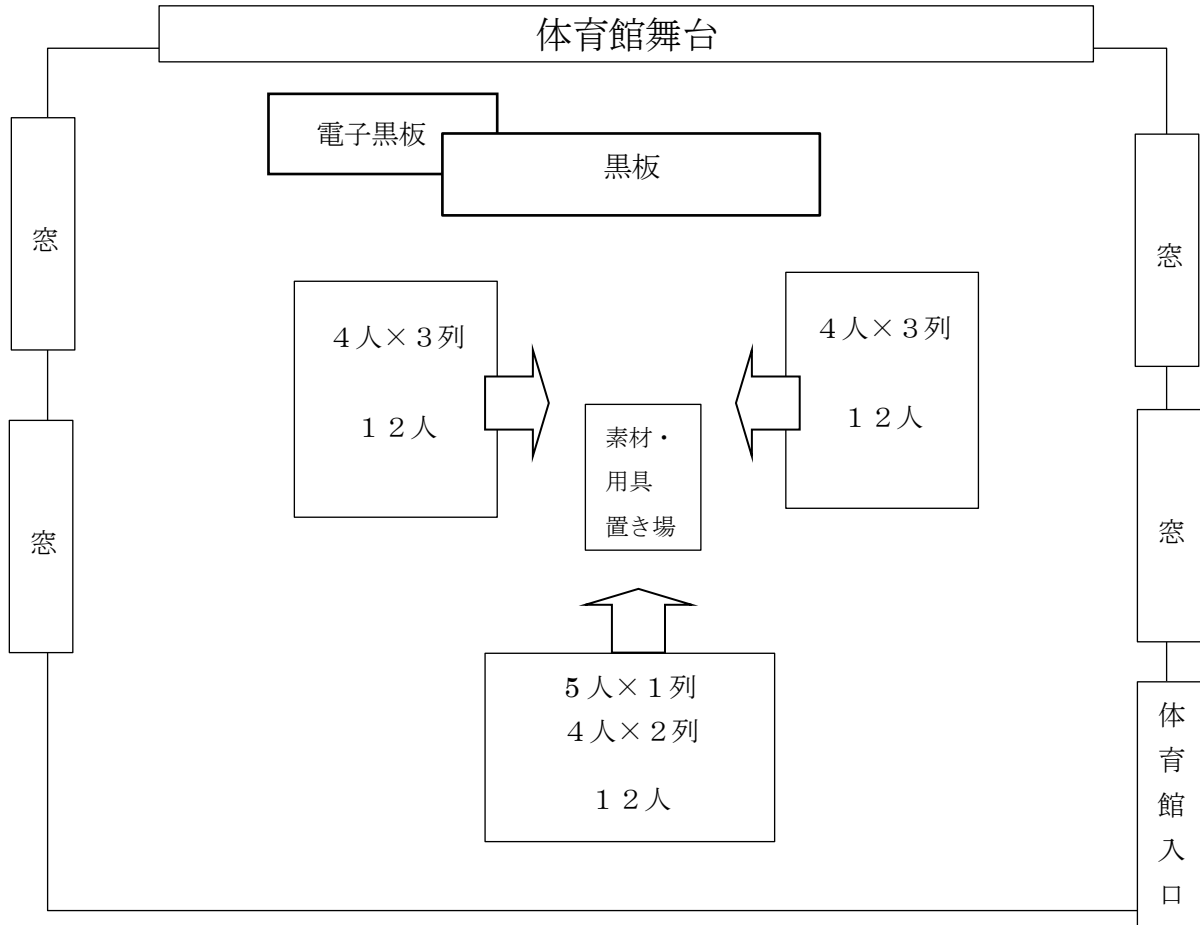
（1）本時の目標

- ・写真から想像を広げ、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分の「まだ見ぬ世界」のイメージをもちながら、表したいことに合わせて形や色などを工夫して絵に表す。

（2）本時の展開

時間	○学習内容 ・児童の活動	◆指導上の留意点 ◇教師の支援	学習活動に即した評価基準 【評価方法】（観点）
5分 導入	○本時の学習の見通しをもつ。 ・題材計画を確認する。 ・本時のめあてを知る。	◆前時で広げた「まだ見ぬ世界」のイメージを簡単に確認し、前時の活動を思い出す。	写真を基に表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。 (思考・判断・表現) 【作品・児童の様子】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ㊦ 写真からイメージを広げて、「まだ見ぬ世界」を表そう。 </div>	◆児童が、本時のめあてを意識して主体的に活動することができるように、前時のワークシートと作品を照らし合わせ、自分の表したいことややってみたいことを明確にする。 ◆児童が、イメージに合わせて形や色を工夫して表現できるように、前時に挙げた工夫の視点を再度確認する。	
	・前時のワークシートを見返し、本時でやってみたいことを確認する。 ・表現の工夫を思い出す。 ・場の設定を知る。 ・本時の活動の流れを知る。		
25分 展開	○思いついたことや自分のイメージを基に形や色などを工夫して絵に表す。	◇発想・構想することが困難な児童に対しては、イメージしたことを表すために、どのような工夫ができるか黒板の視点を基に共に考えたり、「どんな世界?」「何がある?」「どんな匂い?」などと問いかけ、感性豊かに想像することを促したりする。 ◇表現することが困難な児童に対しては、写真のもつ造形的な特徴を捉え、線を延長させたり、繰り返したりして画面を構成すること、写実的に描くことが困難であれば、図鑑や画像を基に具体物を見ながら描くことなどを助言する。 ◇主体的に活動している児童に対しては、より自分の思いに合った表現を吟味したり、自分なりのストーリーをつくりながら制作したりするよう促す。 ◆児童が、自己の表現の一つ一つに意味や価値を見出して制作することができるよう、教師が、児童の作品のよさや面白さを伝えながら机間巡視する。	
15分 まとめ	○学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 ・片付ける。 ・ワークシートを使って活動を振り返る。 ・友達の制作風景を知り、次回の制作の見通しをもつ。	◆ジップロックを用意してパレットを洗わずに入れ、次回に同じ色を使うことができるようにする。 ◆「まだ見ぬ世界」に対するイメージの広がり振り返られるよう、ワークシートにイメージを付け加えたり、次回にやってみたいことを書き込んだりする。 ◆工夫して制作していた児童を意図的に取り上げて紹介し、児童の制作意欲を高める。	

(3) 学習環境
場所：体育館前方



(4) 板書計画

<p>まだ見ぬ世界 (2/6 時間目)</p>	<p>工夫できること</p>	<p>活動計画</p>
<p>め写真からイメージを広げて、「まだ見ぬ世界」を表そう。</p> <p>まだ誰も見たことのない世界→見てみたい世界 行ったことのない世界 普通には行けない世界 (空想の世界?) 過去や未来</p> <p>写真を見て感じたこと・想像したこと</p> <p>別の世界に繋がっていきそう</p> <p>写真を見て気付いたこと (形・色)</p> <p>前向きな感じ ← 道が真っすぐ続いている → うねうねした線 → 不思議</p> <p>黒とオレンジの対比</p> <p>はっきりとした感じ</p>	<p>形・ものの形 (線)</p> <p>色・色の塗り方 (色の鮮やかさ・濃淡)</p> <p>絵の全体のバランス (奥行き)</p> <p>写真の角度や位置</p> <p>構図</p> <p>画用紙の向き</p>	<p>1 初めての確認</p> <p>2 制作 (14:00まで)</p> <p>3 片付け&振り返り</p> <p>1 うまく表現できたところ</p> <p>2 次にやってみようところ ⇒広がったイメージを付け足す</p> <p>4 まとめ</p>

(5) 授業の視点

- ◎目標に対する教師の手立ては適切であったか。
- ◎「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の観点から、児童のどのような学びの姿が見られたか。
- ◎ワークシートの活用は、有効な手立てであったか。